

平成30年度
授業改善推進プラン

平成30年8月
大田区立羽田中学校

目 次

平成30年度 大田区立羽田中学校 授業改善推進プラン全体計画	1
各教科の授業改善推進プラン	
国語科	2, 3, 4
社会科	5, 6, 7
数学科	8, 9, 10
理科	11, 12
英語科	13, 14
音楽科	15, 16
美術科	17, 18
保健体育科	19, 20
技術・家庭科	21, 22

【関係法令等】
 ○日本国憲法 ○教育基本法
 ○学校教育法 ○学習指導要領
 ○東京都教育委員会教育目標
 ○大田区教育委員会教育目標

【学校の教育目標】
 人間尊重の精神を基調として、広い視野を持って未来を生き抜く、心身ともにたくましい生徒を育てるために、次の目標を掲げ、全教職員で教育実践に取り組む。
 ○「豊かな心」 ○「学ぶ力」 ○「健やかな

【願い】
 ○学校、地域の実態
 ○地域の期待や願い
 ○保護者の期待や願い
 ○期待される生徒像

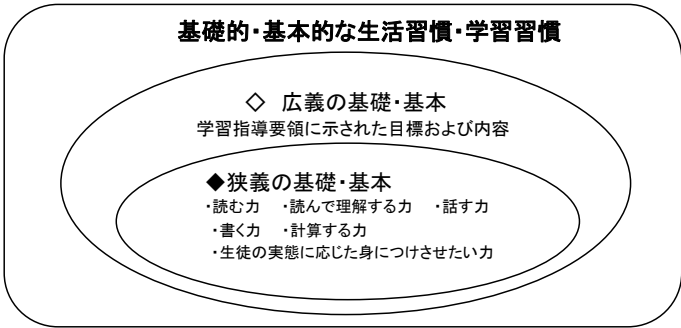
学校経営方針 笑顔と信頼のあふれる学校を目指して
 『豊かな心と主体性を育む教育』を推進する。
 『学力向上・体力向上のための取り組み』を推進する。
 『地域と共に子どもを育てる教育』を推進する。

各教科の指導の重点
 ○「区学習効果測定」、「都学習状況調査」「保護者・生徒による授業評価」等の結果分析、基礎・基本の定着と思考力を高めるための「授業改善推進プラン」の作成による授業改善への取り組みの充実
 ○生徒の学習状況の把握と個に応じた指導の充実のために「学習カルテ」の作成と個別面談の実施
 ○ICT教材の活用
 ○土曜補習(年6回)、放課後補習教室、夏季休業中の学力補充教室の実施

【本校における確かな学力の捉え方】
 本校では生徒の人間としての調和のとれた成長を目指し、次に掲げる力を育成する。
 ①基本的な生活習慣と学習習慣
 ・規則正しい生活をしていこうとする意欲 ・家庭学習を継続する力
 ②授業規律と学習環境を整える力(姿勢・態度・服装・授業前の準備)
 ・学習用具を揃える力 ・話を聞く力 ・ノートをとる力
 ③基礎・基本的な学力
 ・読む力 ・読んで理解する力 ・話す力 ・書く力 ・計算する力
 ④知識及び技能を活用する力
 ・思考力 ・判断力 ・表現力 ・発表力
 ⑤主体的・創造的に学び続ける意欲や態度
 ⑥情報の収集力・活用能力
 ⑦自ら課題を設定し探究する力、課題解決能力、コミュニケーション能力
 ⑧マナーや規範意識
 ⑨個性・適性を生かし社会に貢献していく力、自己実現を図ろうとする力

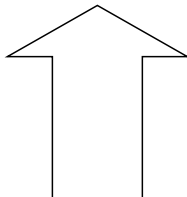
道徳教育の指導の重点
 ○「考え、議論する」道徳へ向けた指導法の研修を推進し、意図的・計画的に道徳授業の実施を図る。
 ○小中連携「規範意識向上プログラム」を計画的に実践し、何が正しいかを判断し、自ら責任をもって行動できる能力(自己指導力)を養う。
 ○道徳授業地区公開講座を充実させ、家庭や地域社会と連携した心の教育を推進する。
 ○自他の命を大切にすることを育む教育に取り組む。(3月生命尊重週間)

総合的な学習の指導の重点
 ○生徒自らが課題を設定し探求する学習の3年間を見通した計画的な実施
 ○環境問題や地域の課題、職業や自らの将来などへの課題意識をもたせる指導と、課題解決能力やコミュニケーション能力の育成
 ○図書室やパソコン室の有効活用、地域の図書館や関係諸機関との連携など、様々な学習環境の積極的な活用



特別活動の指導の重点
 ○「時と場と立場をわきまえた行動」の確立と主体的な活動を通じた自己伸張
 ○生徒会活動・学級活動の充実による自主的・自治的な態度の育成(ノチャイムデイの実施)
 ○部活動への積極的な取組による豊かな感性の涵養と体力の向上、生徒相互・生徒と教師の信頼関係の深化
 ○特別支援学級との交流活動の充実

進路指導・キャリア教育の指導の重点
 ○「人としてのあり方、生き方」を考えさせる指導
 ○3年間を見通した進路指導計画に基づく系統的・計画的な指導の継続
 ○3日間の職場体験学習等を通して、社会に貢献する態度の育成と自己実現を図ろうとする力の涵養



生活指導の重点
 ○規範意識の向上と望ましい生活習慣の確立
 ○学校生活調査とHyper-QUの実施、スクールカウンセラーと連携した教育相談の充実
 ○セーフティ教室(SNS、薬物乱用防止)の実施
 ○地域や家庭、関係諸機関との連携による健全育成、安全指導の徹底

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導内容・指導方法の工夫	研究・研修への取り組み	評価の工夫	小学校および家庭や地域社会との連携の工夫
新学習指導要領の趣旨を踏まえて ○基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と思考力・判断力・表現力の育成 ○学校評価の改善・工夫とそれを生かした授業評価の実施 ○「朝読書」・「新聞教育」を活用した読解力・表現力の育成 ○道徳の授業の充実	○数学(全学年)で少人数学習熟度別授業を実施 ○英語(全学年)でチームティーチングによる指導を実施 ○総合的な学習の時間における職場体験・上級学校訪問などの体験的な活動の充実 ○個に応じた指導の充実のため「学習カルテ」の作成とカルテに基づく個別の面談の実施	○生徒の学習意欲を引き出す指導方法の工夫と学力向上のための取り組みの充実 ○職層に応じた研修等(2、3年次、主幹・主任教諭、研究員等)や校外の研修への積極的な参加と研修成果の還元 ○特別支援教育コーディネーターを中心とした特別支援教育に対する支援体制の確立と	○より精度の高い評価基準を目指した適切な評価計画に基づく評価の実施 ○指導と評価の一体化(生徒の学習意欲を喚起し、生徒・保護者への評価に対する説明責任を十分に果たす) ○各教科の学習状況の保護者への周知と家庭における学習習慣の定着を目指した取り組み	○連携小学校との共通指導目標(「生活指導スタンダード」・「学習指導スタンダード」)の活用 ○小学校児童を対象とした中学校見学・部活動体験入部の実施 ○ボランティア活動への積極的な参加の促進と地域との連携の充実 ○「アシスト羽中(学校地域支援本部)」との連携

平成 30 年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・各学年とも国語科全体の達成率が概ね目標値に達する、あるいは迫る数値となっている。基礎学力の定着に重点をおいた指導が学力の下支えにつながっていると考えられる。
- ・短期的な目標として意欲を持ちやすいように、また基礎学力が定着するように単元テスト・小テストを定期的に行うことが出来た。

(2) 課題

- ・話すこと・聞くこと・読むこと・書くことのすべての基本となる考える力や語彙力に課題がある。活字に触れる機会を確保するとともに、日常の言語活動を意識的に捉える習慣をつけながら、理解や思考の深まりにつなげる指導を組み立てる。
- ・授業での学習同様に、基礎学力の定着には家庭学習が重要であることを伝えながら、意欲的に課題に取り組めるように指導する。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	平成 30 年度結果	平成 29 年度結果	平成 28 年度結果
第 1 学年	全体としては目標値を少し下回った。「話す・聞く能力」に関する問題に課題が残った。	/	/
第 2 学年	全体としては目標値をやや下回ったものの、「関心・意欲」「話す・聞く」「書く」の観点では目標値を上回っている。漢字などの問題に課題が残った。	全体としては目標値を下回った。特に話すこと・聞くことについての問題に課題が残った。	/
第 3 学年	全体としては目標値に達しており、「関心・意欲」「話す・聞く能力」については目標値を上回っている。	全体としては目標値を上回った。知識・理解の問題のみ目標の水準に達していない。	全体としては目標値を下回った。知識理解の問題以外は目標の水準に達していない。

(2) 分析（観点別）

① 第 1 学年

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
目標値を下回っていたが、これは関心意欲を測る問題の一つであった、聞き取り問題でのつまづきや、記述問題の影響のためだと考えられる。	目標値を下回った。話の内容を正確に聞き取ったり、聞き手に理解してもらおうための話し方の工夫を聞き取ったりする問題の正答率が低く課題がある。	目標値を下回った。説明的文章で構成や展開を捉える力、文学的文章で登場人物の心情をとらえる力、文章の内容に沿ったまとめを書く力に課題がある。	概ね目標値に達している。	目標値を上回った。比較的漢字の読み問題がよくできた。その一方で、文法・語句に関することわざや修飾語について課題が残る。

② 第2学年

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
目標値を上回った。これは関心意欲を測る問題の一つである、聞き取り問題や作文での頑張りの影響のためと考えられる。	目標値を大きく上回った。どの問題も概ねできている。	目標値を上回った。どの問題も概ねできている。	目標値を下回った。説明文では文章の構成や展開を読み取る問題、文学作品では登場人物の様子や心情を読み取る問題が苦手なようである。	目標値を大きく下回った。漢字の読み書き、文法についての理解に課題がある。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
目標値を上回った。これは関心意欲を測る問題の一つであった、聞き取り問題での頑張りが良い方へ影響したと考えられる。	目標値を上回った。どの問題も概ねできている。	どの問題も概ね目標の水準には達しているが、指定された文字数と段落数で書く問題に課題が残った。	概ね目標値に達している。どちらかといえば説明的文章に対して課題があるようである。	目標値をやや下回った。漢字の読み書きに力を入れる必要がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
授業に向かう姿勢をさらに向上させる。また、学習効果測定に関心意欲の領域でも成果が出るように、身近な事例を取り入れながら関心意欲の向上を図り、聞き取り問題でのつまづきを改善していく。	定期的授業内で聞き取り問題を実施したり、グループで話し合い、自分たちが発表する場を設け、意見交換をし、お互いに学ぶ場を増やす。聞き方話し方のポイントを体験的に身につけていくようにする。	文章の内容に沿ったまとめを書くような記述問題に取り組むときは、作業を細分化して書くポイントを理解して書く習慣を身につけられるようにする。	文章の内容に沿ったまとめが書けるようにするためにも、文章の展開や構成に気をつけながら読む能力を育成する。また、教科書教材以外の文章にもふれ、多読を進め読解力の向上を図る。	目標値を上回ったが、普段の授業の様子では漢字の読み書きがそこまで得意ではないようである。小テストの実施、及び繰り返し復習をし、定着を図る。辞書を活用し、語彙力をつける。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
授業にはほとんどの生徒が意欲的に取り組んでいる。学習効果測定に関心意欲の領域でも結果が出るように、聞き取り問題や作文にさらに力を入れる。	授業内で聞き取り問題を実施したり、発表する場を設けたりするなどして、聞き方話し方のポイントを体験的に身につけていくようにする。	文章の内容に沿ったものを書く力を育成するために、書く前段階での文章の正確な読み取りの作業に力を入れる。	説明文の授業では構成や展開を読み取る問題を多めに取り入れ、力の向上を図る。	漢字の読み書きでは、引き続き小テストの実施などで定着を図っていく。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
授業にはほとんどの生徒が意欲的に取り組んでいるので、さらに意欲が向上するよう授業を進める。	引き続き力を伸ばせるよう、集団討論等の授業を導入するなどする。	文字数と段落数を指定して書く作業を取り入れ、条件内で書くことに慣れるようにする。	文章の展開に即して要旨をとらえる力をつけるために、段落や全体の要旨をとらえる課題を取り入れる。	引き続き小テストの実施などで漢字の定着を図っていく。

平成 30 年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

・資料提示や読み取り作業を授業で多く取り組んだ結果、地図の活用など単純な資料の読み取りに関しては一定の成果が出ている。

(2) 課題

- ・どの学年も正答率が目標値から下回っている傾向にあり、2, 3 学年では複数の資料から読み取った情報を活用する問題の正答率が低く、課題が見られた。授業において資料活用の演習などを継続的に行っていく必要がある。
- ・どの学年も知識・理解を問う問題での正答率が目標値に達していないことが多く、ワークなどの学習を踏まえて基礎的・基本的な知識の定着を図っていく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	平成 30 年度結果	平成 29 年度結果	平成 28 年度結果
第 1 学年	全体では目標値から下回る結果であった。特に知識・理解を問う問題において正答率が低い傾向が見られた。	/	/
第 2 学年	全体では目標値から 10 ポイント以上下回る結果となった。特に歴史的分野の飛鳥～平安時代の知識・理解の問題全てで目標値を大きく下回る傾向が見られた。	全体では目標値から下回る結果であった。特に知識・理解を問う問題と思考力・判断力・表現力を問う問題で正答率が低い傾向がみられた。	/
第 3 学年	全体では目標値から下回っており、昨年度と比較しても正答率よりも若干下がるという結果となった。	全体として目標値から下回っており、昨年度と比較しても 0.7 ポイント下回る傾向が見られた。	全体として目標値からは下回っていたが、地理的分野において資料の読み取る力を問う問題での正答率が高かった。

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
地理・公民の両分野では目標値に達する問題もあるが、歴史的分野では低い数値となっている。	概ねどの問題も目標値に近い正答率であったが、記述の問題で目標値を20ポイント近く下回る結果となった。	資料を読み取る問題に関しては、目標値を上回る正答率の問題も多くあるが、複数の資料を活用する問題などでは正答率が上がらない傾向にあった。	ほとんどの問題で目標値を下回る結果となっている。特に歴史的分野で目標値から正答率が大きく下回る問題があった。

② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
目標値を上回る正答率の問題がいくつもあり、目標値を下回る場合もほとんど5ポイント以内に収まっている。	記述の問題2問はともに目標値を上回る結果となっている。複数の資料を活用する問題では正答率が目標値を下回っている。	地図の読み取りについては目標値を上回っているが、主題図や歴史資料などの読み取りの問題では目標値を下回る結果となっている。	全体として目標値を下回る状態であるが、特に歴史的分野において平安時代の政治に関する問題で目標値を20~30ポイント下回る結果となっている。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
目標値を上回ることではできていないものの、どの問も5ポイント以内であった。	目標値を上回ることではできておらず、多くは5ポイント以内という結果であった。	目標値を上回ることができている問題がある一方で、雨温図等の資料活用を問う問題で大幅に目標値を下回る結果となった。	江戸時代の産業の特色を問う問題で目標値を上回っているものの、それ以外の問題では目標値を下回る結果となった。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
定期考査で時事問題を出題し、現代社会の出来事に関心を持たせるとともに、学習内容との関連づけも行っていく。	授業内で「なぜ、このような状況が生じたのか？」という発問を行い、社会的事象が起こる因果関係を考えさせる。	雨温図や主題図などの資料の読み取りの基礎を徹底的に行い、授業内で演習も行う。	基礎的・基本的な学習事項を授業内においてノートにまとめさせるとともに、学習ワークに単元ごとに取り組みさせる。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
新聞やニュースを活用し、現代にどのような影響を及ぼしているのか関連づけて生徒の関心・意欲を高めていく。家庭学習ができるように指導していく。	地図や資料をもとに自分の考え、自分の言葉で表現できるように継続指導を行っていく。	授業内で資料の読み取りを継続的に行い、その資料がどのような事象と関連しているのかを考えさせる。	プリント学習を中心に授業の内容を整理し、理解させる。家庭学習ができるように知識の定着を図る。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
定期考査で時事問題を出題し、現代社会の出来事に関心を持たせるとともに、特に公民的分野においては新聞記事などを活用し、学習内容との関連づけも行っていく。	公民的分野においては、グループ学習等の中で社会的事象が発生する因果関係を考えさせるとともに、論述させる演習も行う。	授業内で資料から情報を読み取り、その情報を整理するとともに、ワークシートの中で論述させる演習を行っていく。	プリント学習を中心に授業の内容を整理し、理解させる。家庭学習ができるように知識の定着を図る。また学習ワークに單元ごとに取り組みさせる。

平成 30 年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・随時発問し既習内容を振り返らせ、学習内容の理解定着が図れた。また生徒が授業に参加している実感を湧かせ、意欲的に学習に取り組む様子が見られた。
- ・授業導入時の計算問題を毎授業行い、基礎的な計算問題を解く力をつけることができた。
- ・数学的活動を通し、生徒が物事を数理的に考えることの良さを実感することができた。

(2) 課題

- ・繰り返し学習を通して、基本的な知識・技能の向上は図れた。しかし、それをういて物事を考え解決するには至っていない。課題解決に至までの過程を、生徒が理解できるよう指導を継続する必要がある。
- ・領域を跨がる問題解決を苦手とする生徒が多い。各問題に対し、既習内容がどのように活用され問題解決が図れるのか、そのことを生徒が実感できる授業を行っていく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	平成 30 年度結果	平成 29 年度結果	平成 28 年度結果
第 1 学年	全体として、目標値に対して正答率が前年度を下回っているが、棒グラフの読み取りなどの数量関係の内容で、達成率が上がった。	/	/
第 2 学年	全体として、正答率が目標値を下回っている。(平面図形を除く) 前年度と比べると、数と式や図形、関数の領域では正答率が目標値に近かった。	全体として正答率が目標値を下回っている。前年度と比べると、数と計算や量と測定の領域では正答率が目標値に近かった。	/
第 3 学年	全体として、正答率が目標値を下回っているが、各内容で前年度より、目標値に近い正答率である。特に方程式や関数について、正答率が特に上がった。	全体として、正答率が目標値を下回っており、特に 1 次方程式や関数に関する内容で目標値を大きく下回った。正負の数や資料と代表値に関する内容では正答率が目標値に近かった。	全体として正答率が目標値を下回っている。小数・分数の計算や割合など、特に小数に関する問題の正答率が低い。

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
既習内容を用いて、課題解決を図る姿勢が見られる。積極的に発言する生徒もいて、学習に対して前向きである。	問題文を読み、物事を分析し考察することに、苦手意識を持つ生徒がいる。特に図形の計量、様々なグラフの読み取りでは顕著である。	計算の基本事項は理解している。しかし、式に小数・分数が含まれると、途端に解答できなくなる。	全体として、目標値を下回っている。しかし、基本図形の計量に関する問題は、目標値並の達成率となっている。

② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
意欲的に取り組む姿勢が見られる。しかし、過去の授業の内容理解の定着が図れず、なかなか答えることができない。	基本的・基礎的な知識や技能を活用しながら、見通しをもって事象を論理的に考察する力が十分身に付いていない。	解法が明確な基本問題は解くことができる。しかし、少し異なる問題(少数・分数を含むなど)になると、解けなくなってしまう。	学習直後は、理解するが、定着にはなかなか至らない。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
意欲的に取り組む姿勢が多く見られる。各領域で学習時の理解はあるものの、定着が不十分なため問題解決になかなか至らない。	同一単元であっても、既習事項が複数関連する問題で正答率が低い。特に、複数の領域に関わる問題では顕著である。	基礎・基本の問題に関する解法が身につけてきた。正答率が昨年度を上回る問題もあり、目標値に近い問題も増えている。	目標値を上回る問題もあるが、特に平行四辺形になるための条件を理解し、覚えていない生徒が多い。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
基本的な計算練習を、毎授業で実施している。基本事項の理解定着を図り、生徒が達成感を得ることを狙う。	問題解決のため、既習事項がどのように利用できるのかを、常に考えさせるような発問を授業に取り入れる。	答えのみならず、途中式や考え方を、日頃から書かせる指導を行う。繰り返し行うことで、理解の定着を図る。	生徒に発問し答えさせる際、適切な言葉で表現させる。特に重要な事柄に関しては、日常的に確認させて理解させる。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
基本問題を繰り返し行わせ、小テストで確認する。基礎・基本の定着を図り、「できる喜び」を実感させていく。	筋道を立ててなぜそうなるのか考えさせる発問や学び合いを重視した指導の工夫を行う。	授業始めに、数分間計算練習を行う。授業内で繰り返し基本問題を解く時間を増やす。	授業内で既習の言葉を使いながら説明する。定着が不十分な内容は、その都度確認する。テストで定着の程度を確認する。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
授業始めの計算練習で基本問題の練習を繰り返し、基礎基本の定着を図る。問題を解き、正解する喜びを実感させる。	「なぜ」という疑問を大切にして、学習内容に関連する既習事項の復習を行う。また、類似問題の演習などで、考えることの定着を図る	授業始めの計算練習を継続し、基礎・基本の問題を繰り返し解くことで定着を図る。	授業内で既習の言葉を使いながら説明する。定着が不十分な内容は、その都度確認する。また、単元テストなどで定着の程度を確認する。

平成 30 年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

「自然事象についての知識・理解」については比較的高い結果が見られる。基礎・基本を重視し、反復して学習を繰り返した成果だと感じる。

(2) 課題

前年度より達成率を上昇させた観点もあるが、全学年、多くの観点で目標値を上回ることはできなかった。特に学習後しばらく間の空いた単元は達成率が低かった。すぐに忘れるような学び方ではなく、繰り返し学習することでしっかりと知識として定着させていきたい。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	平成 30 年度結果	平成 29 年度結果	平成 28 年度結果
第 1 学年	「物質・エネルギー」領域が、「生命・地球」領域より達成率が低かった。実験を行うことで知識を定着させる。		
第 2 学年	全観点で達成率を下げる結果となった。「観察・実験の技能」の観点に課題があるので、実験・観察を重視する。	「知識・理解」に課題が残った。理科用語が身につくよう反復練習させていく。	
第 3 学年	全観点で達成率を上げる結果となった。「観察・実験の技能」の観点が高く、「科学的な思考・表現」の観点が低かった。	全観点で達成率を下げる結果となった。特に「知識・理解」に課題があるので、改善に努める。	「観察・実験の技能」に課題が残った。実験・観察を通して、器具の正しい使い方も身に付けさせる。

(2) 分析（観点別）

① 第 1 学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
全体的に達成率が高く、特に信号機とダイオードのような身近なものの科学を問うものが高かった。	溶解度をグラフから判断する、てこの仕組みを問うなど計算が必要な問題の達成率が低かった。	顕微鏡の操作や水溶液使用上の注意点など操作に関するものの達成率が高かった。	動物のからだ、大地のつくりはよく理解できている。電気の利用、水溶液の性質は定着しきれていない。

② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
音や光は、日常生活と関連させて理解できているが、水溶液は関係づけて考えられていない。	光・音・地震の単元の達成率が高い。一方、密度や圧力の計算が苦手なことがわかる。	光合成の対照実験の条件制御、レンズでつくり出す像の位置と大きさの推測の達成率が低かった。	孢子植物の性質や深成岩のでき方など、区別して理解しなければならないものの達成率が低かった。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
家庭内の配線が低かったが、日常生活に見られる分解など全体的には達成率は高かった。	柔毛のつくりの利点、並列つなぎの利点、呼吸の仕方の説明など記述問題の達成率が低かった。	電流計や天気図の読み取りは理解できている。金属の酸化をグラフに表すものの達成率が低かった。	肝臓の働き、前線の構造は理解できている。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
例えば「水溶液」の説明の中でコーヒースーガーの溶け方を取り上げるなど、身近なものへの応用を行う。	密度や圧力の計算では、反復して行う計算練習を増やし、思考力を伸ばしていく。	実験の仕組みや、使用する薬品や器具についても「なぜ」使用するのかを考えさせ理解させる。	問題練習や単元テストなどを用いて繰り返し学習することで知識を定着させていく。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
単元への関心意欲を高めるため、身の回りの自然現象を具体的に取り入れる。	事象に潜む関係や法則を見出し、序列化して説明する力を身に付けさせる。	実験の仕組みや器具、使用する薬品、指示薬の性質までしっかり理解させる。	問題集を反復させ、単元テスト・小テストを用いて、知識を定着させる。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
身近な自然現象を導入として取り入れることで単元への関心を高めていく。	授業の中でも「なぜ」「なに」を投げかけ、理論的に説明できる力をつけていく。	運動の実験などで、実験結果をグラフにまとめ、そこから性質を考察することで技能の力をつけていく。	練習問題や小テスト、単元テストなどを用いて、繰り返し学習することで知識を定着させていく。

平成30年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・教科書の音読や暗唱、ノートに書き写す作業を繰り返させることで、基礎的な表現の向上につながった。
- ・ペア活動や教員、ALTとのやりとりを積極的に取り入れることで、コミュニケーションへの関心・意欲・態度を高める工夫を行った。
- ・小テスト、単元テストを繰り返し行うことで、知識の定着度を確認しながら授業を進めることができた。

(2) 課題

- ・学習した表現を活用して英作文を行うことに苦手意識を持つ生徒が多い。特に、「書く力」を伸ばすために、短い英文を書く練習を繰り返す必要がある。
- ・基礎・基本の徹底のための指導を引き続き行い、語形、語法、語彙の力を身につけさせていく工夫が必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	平成30年度結果	平成29年度結果	平成28年度結果
第1学年			
第2学年	領域においては、「書くこと」特に、記述の正答率が低かったので、語彙や英文の構造に重点を置いて、指導する必要がある。	語形・語法の理解は目標値を達成したものがあ一方で、定着していない語形もある。英文を正しい語順で書く力が低い。	
第3学年	リスニングについては目標値を上回っているが、語形や語彙の知識が低く、その結果長文読解の力も低い。	対話の内容の聞き取りについては概ね目標値を達成することができた。前年度に引き続き単語を書く力が低い。	語形・語法の理解は概ね目標値を達成することができた。一方で単語を正しく書く力が低い。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
「話すこと」、「聞くこと」に関して意欲、関心が高い。一方で、「話すこと」から「書くこと」への流れで、苦手意識を持たない	音読などの活動で積極的に声を出す生徒が多い。簡単な単語から始まり、英文のきまりに沿って「書くこと」を定着させ	リスニング等の問題で、ほぼ正しく応答できる。一方、まとまった英文を時間内に読み、概要をとらえる力を段階的に伸	英単語などの語彙や英語と日本語の語順の違い等、文法上の規則を理解させ、さらに基礎基本を繰り返し練習し、定着を

ように指導する。	る必要がある。	ばす必要がある。	図る必要がある。
----------	---------	----------	----------

② 第2学年

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
「話すこと」や「聞くこと」に関心・意欲が高い。一方で、英文を「書くこと」への取り組み意欲をさらに伸ばす必要がある。	「書くこと」において特に記述式の問題への対応力が弱い。単語力を地道につけていくことと、文法を理解を定着させることが課題である。	「聞くこと」において、大意把握はできるが細部の情報整理に課題がある。また、「読むこと」では、基本を活用させることが課題である。	単語のスペルや文法上のきまりを繰り返し指導し、スモールステップで定着させ、基礎・基本の充実に十分を図る必要がある。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
聞くことへの関心・意欲が表れてきている。書くことへの関心を高めていく必要がある。	与えられた表現に応じて、知識を活用して表現する力の向上が必要である。また、書くことに自信が無い生徒も多い。	細かな情報の読み取りをする力が不足している。語彙力を高める必要がある。	基本的な英語の文法的知識、語彙が不足している傾向にある。繰り返しの学習が必要である。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
ビンゴやクイズ等、また興味・関心ももてる題材や ICT 機器等を積極的に取り入れ、指導する。	ペアワーク等の活動を取り入れ、音読の充実を図り、単語から文へと段階的に「書くこと」の定着を図る。	音読からまとまった英文の内容理解まで深められるように、文法を丁寧に説明し、活用できるように指導する。	既習の文法事項を、毎回少しずつ繰り返し復習させる。また、単語の小テストなどを交えさらに定着を図る。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
ビンゴに復習単語を入れる等の工夫を行う。また ITC 機器を活用し、教科書の内容理解に対する興味・関心を促す。	ALT の先生と協力し、音読テストを定期的に行う。また、「書くこと」については、小テストを継続的に実施する。	定期テストにおいて、初見のまとまった英文を読ませる。また、リスニングも指導している文法に合わせて行う。	単語や文法の短文小テストを継続的に実施する。また、ノート作りの課題を宿題として出し、家庭学習と連携させる。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
最終的に書くことへの意欲が高められるように、様々な活動のまとめとして書く活動を増やしていく。	ペアやグループ活動の時間をさらに増やし、学んだ表現を口頭で活用できるように少しずつ段階を経て、指導する。	語彙力を高めるために、様々な指導法を工夫し、定着するように指導する。また、語彙から語句、文の並びにつなげる。	単一の各文法をまず定着させ、既習の文法事項も演習問題などを繰り返し行うことで、複数の文法ルールに対応させる。

平成30年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・合唱練習では、歌詞を書いた模造紙を使い、合わせ練習に役立てた。また、練習方法を工夫し、まとめとなる3学期にその成果を発表することができた。

(2) 課題

- ・授業規律を確立し、落ち着いた授業環境を整える。
- ・歌唱において、声を出すことに抵抗を感じている生徒、地声や男子の異常低音等の課題を克服し、自然な響きのある歌声を身につけさせる。
- ・箏の授業では、一人一面を手配し、実りある体験活動にする。
- ・「校歌」を歌う場面では、恥ずかしがらずに声を出して歌えるようにする。

2 観点別の課題

第1学年～第3学年

関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
聞く(聴く)、書く、読む、歌う、弾くという流れに乗れない生徒がいる。	創意工夫のために必要な知識・理解が乏しい。	歌唱表現に必要な姿勢、発声等の基本となる力が身につけていない。	鑑賞曲から何を学び、感じるのか。注目するポイントを理解するまでに時間がかかる。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
授業に落ち着いて取り組むことが基本である。歌唱や鑑賞、提出物に至るまで、ひとつひとつ確認しながら進めていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎知識定着のために、既習曲に繰り返し取り組む。 ・歌のテストで力が発揮できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現活動を通して、楽譜の見方、拍子、指揮、強弱記号、歌詞等の基礎知識を身につける。 ・模範唱を聴いて、発声、音程等の技能を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞曲の基礎知識、理解のために、プリントや資料集を活用する。また、想像を絵で表現させる。 ・バロック、ロマン派 オーケストラ鑑賞教室

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
授業に落ち着いて取り組むことが基本である。分かりやすい説明、プリントや視聴覚機器の活用により関心を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎知識を表現活動に活かせるように、パート練習や合わせ練習に取り組ませる。 ・歌のテストでは姿勢、声量、音程の基本項目を意識して歌えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現活動を通して、調を理解し、基礎知識を定着させる。 ・パート練習により音を身につけ、合わせ練習で課題を探り、書き込みをした楽譜を練習で活かせるようにする。 ・箏の基本奏法が身につくように、事前学習を丁寧に行う。 	鑑賞曲の基礎知識、理解のために、プリントやワークを活用する。感想は学習内容をふまえ、自分の言葉で表現する。 ・バロック、古典派、ロマン派

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
授業に落ち着いて取り組むことが基本である。目標の明確化、特に歌唱練習の工夫を図りながら、より関心を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎知識を表現活動に活かせるように、毎時の目標を意識して取り組む。 ・歌のテストでは、基本項目以外に、歌詞を味わい、表情豊かに歌えるようにする。 	曲完成までの地道な反復練習を通して、必要な技能を身につける。聞く、話す、書く、聴く、歌う、個人、パート、合唱、話し合い、手順と進行等の練習過程における積み上げである。	鑑賞曲の基礎知識、理解のために、プリントやワークを活用する。音楽の幅を広げ、暮らしの中の音楽という視点から、自分の考えを表現できるようにする。 ・文楽 オペラ 近代・現代

平成 30 年度 美術科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・素描などの基礎的な技能の反復練習により、学習したことを生かしながら課題に取り組む生徒が増えている。
- ・創造的な技能とともに、「自分で考える」場面を増やすことにより、自分ならではの表現に自信を持つ生徒が増えた。

(2) 課題

- ・基礎的な技能の反復練習を行い、創造的な技能の習得とともに、イメージトレーニングやアイデアスケッチなど、「自分で考え、決める」ことを増やし、自分らしい表現の完成まで探求し続ける創造性を育てる。
- ・生徒にあった教材の研究や提示方法の工夫を引き続き行い、発想や構想に新鮮さや深みを持たせ、主体性を高め、探究心や美意識の高まりを促す。
- ・教室環境を整え、掲示物や情報機器の効果的な活用により、表現の幅を広げたり自分らしい表現を深めたりするきっかけを増やす。

2 分析（観点別）

① 第1学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
課題に集中できる生徒が多いが、最後まで制作意欲が続かず妥協してしまうものも見受けられる。	発想することに苦手意識があり自信を持って、自由に表現できずにいるものが若干いる。	自分の考えを表現するための段階的な技能の習得が必要である。	芸術作品に触れる経験が少なく、自他の作品の良さを見つけ、そこから発展させて自分の作品に活かす力が乏しい。

② 第2学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
主体的に取り組む、自分ならではの感覚に自信を持つものが少ない。	自由に発想することができるが、さらに考えを発展させたり深めたりすることが苦手である。	技能を習得しても定着せず、次の週になると忘れて、作品作りに活かさない生徒がみられる。	幅広い知識や経験から美的感覚に向上を図りさらに発展させて自分の作品に活かす力が乏しい。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
高い意識を持って取り組める生徒が多いが、表面的なものになっている者もいる。	学習したことを活かし、自分らしい発想や構想を深めていく力が不足している。	イメージを形にできる生徒が多数であるが、基礎的な技能が不足して考えが停滞する者もいる。	生活の中で諸外国の文化に触れ美的感覚の向上を図り、さらに発展させて作品に活かす力が乏しい。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
毎時間の目標を明確にし、自分の課題に集中させるようにする。自発的に取り組めるように資料や書籍を整備する。	発想の段階でいくつかのアイデアを出させ、その中から自分で決定し自信を持って制作できるように促す。	新たな知識や技術を身につけることにより、自分の作品の完成度を高めるように促す。	教室内外の掲示物や資料提示を工夫し、生活の中で芸術に触れる機会を増やし、一人一人の美意識を高める。

（2）第2学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
毎時間の目標を明確にし、自分の課題に集中できるようにする。自己探求しやすい環境に気を配る。	自分で考えを深める発想や構想の方法を知り、自分らしい表現をしやすいとする。	できるだけ個々の技能の習得に対応し、制作に活かせるように助言する。	美術館レポートの作成など、生活の中で芸術に触れる機会を増やし、一人一人の美意識を高める。

（3）第3学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
毎時間の目標を明確にし、自分の課題に集中させる。3年間のまとめとして、強い意識を持って取り組めるような教材研究に努める。	既成のイメージを超えるような参考作品を見せるなど発想について深く考えさせる場面をつくる。	授業に反復練習を組み込み基礎的な技能を定着させ、自分らしい表現を工夫する能力を高める。	修学旅行で歴史的文化財に触れたり、諸外国や現代美術などを提示したりすることで自由で豊かな美的感覚を身につけさせる。

平成30年度 保健体育科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・補強運動として持久走を継続的に取り入れ、持久力を高めることができた。
- ・オリンピック・パラリンピック教育推進校として、さまざまな種目の選手から講話を聴く機会をつくり、生徒の興味関心を高めることができた。

(2) 課題

- ・総合的な体力の向上。体幹を鍛えたり、多様な動きのトレーニングをさせたりして、身のこなしやバランス力などを養わせる。
- ・挑戦しようとする態度を育てる。前向きな言葉かけで積極的に運動に取り組ませ、自己肯定感を高めさせる。
- ・集中する力や継続する力をつける。

2 観点別の課題

① 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
《男子》苦手意識が強く、出来ないことへチャレンジする気持ちが薄い。 《女子》 苦手なことに消極的で、自主的な活動が苦手な生徒が多い。	《男子》自己課題を把握して克服しようとする意識が低い。 《女子》 自己の課題をみつけて練習を工夫する力が不足している。	《男子》基礎体力が不足している生徒が多い。 《女子》 基礎体力が不足している生徒が多い。	《男子》授業での知識を定着させることが苦手である。知識が持続しない。 《女子》 授業での知識を定着させることが苦手である。知識が持続しない。

② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
《男子》苦手意識が強く、出来ないことへチャレンジする気持ちが薄い。 《女子》 苦手なことに消極的で、自主的な活動が苦手な生徒が多い。	《男子》自己課題を把握して克服しようとする意識が低い。 《女子》 自己の課題をみつけて練習を工夫する力が不足している。	《男子》基礎体力が不足している生徒が多い。 《女子》 基礎体力が不足している生徒が多い。	《男子》授業での知識を定着させることが苦手である。知識が持続しない。 《女子》 授業での知識を定着させることが苦手である。知識が持続しない。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
《男子》積極的に取り組む生徒とそうでない生徒の差が大きい。 《女子》とても積極的に取り組むので、自主的な活動の質を高める。	《男子》課題に合った練習方法を選択することが苦手である。 《女子》 自己の課題をみつけて練習を工夫する力が不足している。	《男子》基礎体力が不足している生徒が多い。 《女子》 基礎的な技能は高いが、ゲームなどの実践に生かせない。	《男子》授業での知識を定着させることが苦手な生徒が多い。 《女子》 授業での知識を定着させることが苦手な生徒が多い。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
《男子》個々に合った課題を明確化し、出来ることから取り組ませる。 《女子》場面練習を多く取り入れたり、内容をはっきりと理解させたりして取り組ませる。	《男子》スモールステップとフィードバックを繰り返し行う。 《女子》動作を細かく分けてポイントを伝え指導する。フィードバックさせて取り組ませる。	《男子》補強運動や基礎練習を繰り返し行い、基礎体力をつけさせる。 《女子》補強運動や基礎練習を繰り返し行い、基礎体力をつけさせる。	《男子》資料を作成し、配布・提示する。繰り返し授業で確認させる。 《女子》資料を作成し、配布・提示する。繰り返し授業で確認させる。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
《男子》個々に合った課題を明確化し、出来ることから取り組ませる。 《女子》場面練習を多く取り入れたり、内容をはっきりと理解させたりして取り組ませる。	《男子》スモールステップとフィードバックを繰り返し行う。 《女子》動作を細かく分けてポイントを伝え指導する。フィードバックさせて取り組ませる。	《男子》補強運動や基礎練習を繰り返し行い、基礎体力をつけさせる。 《女子》補強運動や基礎練習を繰り返し行い、基礎体力をつけさせる。	《男子》資料を作成し、配布・提示する。繰り返し授業で確認させる。 《女子》資料を作成し、配布・提示する。繰り返し授業で確認させる。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
《男子》個々に合った課題を明確化し、積極的に取り組ませる。 《女子》前回の反省から、自己の課題に合った練習に積極的に取り組ませる。	《男子》自己課題を細かく把握させ、練習方法を選択させる。 《女子》動作を細かく分けてポイントを伝え指導する。フィードバックさせて取り組ませる。	《男子》補強運動や基礎練習を繰り返し行い、基礎体力をつけさせる。 《女子》基礎練習を繰り返し行う。具体的な場면을伝え、ゲーム中に止めてその場で指導する。	《男子》資料を作成し、配布・提示する。繰り返し授業で確認させる。 《女子》資料を作成し、配布・提示する。繰り返し授業で確認させる。

平成 30 年度 技術・家庭科 授業改善推進プラン

大田区立羽田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 普通教室に導入されたプロジェクターや電子黒板などの I C T 機器を活用して、音声・文字情報だけでなく、視覚的にわかるような授業を展開することができた。
- ・ 取り扱う教材をより身近なものにすることにより、生徒が日常生活と関連付けやすい教材にすることができた。

(2) 課題

- ・ 「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業展開を工夫したが、週に 0.5～1 時間という限られた時間で「対話的な」学習活動は時間的な課題を感じた。限られた時間で、必修単元をやっていくためには、他教科との関連を深め、教科の壁を越えた横断的なカリキュラムを学校全体で組織的に取り組む必要がある。
- ・ I C T 機器を活用するのは有効だが、I C T 機器以外の教材も、その特徴を活かして活用していきたい。
- ・ 特定の教材を用いることで、生徒が得られる資質・能力は何なのかを把握する必要がある。どのような「教材」を使い、どのような「教授法」が適切で、「学習者」の実態に合わせて授業を作る意識が今以上に必要である。

2 観点別の課題

① 第 1 学年

関心・意欲・態度	創造・工夫	技能	知識・理解
活動的な時間は、意欲的に取り組むことができるが、座学になると集中力に欠ける生徒がいる。	基本的な知識が不十分で、課題を解決するような問題に取り組むことができない。	玉結び、玉止め、平行線・垂直線の引き方など、基本的な技能が定着していない。	期末考査では問題文を読み間違い、解答方法を間違える生徒が少なくなかった。

② 第 2 学年

関心・意欲・態度	創造・工夫	技能	知識・理解
意欲はあるが、単元により大きく差が出た。	基本的な知識が不十分で、課題を解決するような問題に取り組むことができない。	基本的にはしっかりと説明は聞いて取り組んでいるが、生徒によっては人任せになっている。	工具の名称や用語の意味を理解しきれしていない。

③ 第 3 学年

関心・意欲・態度	創造・工夫	技能	知識・理解
学年全体で意欲はあるが、基本的な知識が不足しているのので発展的な意見が少ない。	基本的な知識が不十分で、課題を解決するような問題に取り組むことができない。	コンピュータを使った授業では文字入力力を一般的なローマ字入力で行うが、ローマ字に課題を感じる。	基本的な知識、特に言葉や用語の意味を十分に理解していない生徒が少なくない。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	創造・工夫	技能	知識・理解
一部の集中力が掛ける生徒には、個別に声をかけて改善するように指導していく。	基礎的・基本的な知識をしっかりと教え込む必要がある。	基本的な技能を身に付けるには授業中に繰り返し指導していく必要がある。	期末考査は今以上にわかりやすい書式や文章で作成していく。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	創造・工夫	技能	知識・理解
生徒によって意欲に差が出る。教材や単元に必然性を持たせて、授業を展開していく。	基礎的・基本的な知識をしっかりと教え込む必要がある。	自ら取り組まないのは学習の意味を伝えきれていないのが原因と考える。必然性を持たせる授業を意識する。	言葉の重要性や意味の理解など、学ぶ意味や意義などを伝えながら、授業を展開していく。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	創造・工夫	技能	知識・理解
基礎的・基本的な知識を指導して、意欲を引き出していく。	基礎的・基本的な知識をしっかりと教え込む必要がある。	授業では復習を取り入れているが、今以上に力を入れていかなければならない。	言葉や用語など基本的な意味をしっかりと指導していきたい。